



【航空写真でタイムトリップ】

S41.4-S44.3月、私が北部中学校に通っていた頃の航空写真です。馬生から“茶色点線”で示したルートを生徒で通学しておりました。懐かしい方もいらっしゃると思います。周囲はまだ田んぼ・畑や林が多くてのどかな郊外(田舎)という印象ですね。段子川も河川改修前で蛇行して流れていたことが分ります。

当時の世相をAIに聞いてみたら、

- 1) 経済: いざなぎ景気の真只中
    - ・実質成長率が年平均11.6%の伸び
    - ・GNPが世界第2位に到達
    - ・「エコミックアムル」、経済大国
  - 2) 生活: 家電が一気に普及、暮らし豊かに
    - ・「三種の神器」TV・冷蔵庫・洗濯機普及
    - ・3Cが一般家庭に入り始める
    - ・「一億総中流」意識の芽生え
  - 3) 社会問題: 公害・都市化・住宅不足
    - ・四日市ぜんそく
    - ・都市への人口集中で住宅不足
    - ・交通渋滞
    - ・経済の明るさの裏で社会歪み表面化
  - 4) 若者文化・学生運動の高まり
    - ・東大安田講堂事件
    - ・ビートルズ来日、GS大流行
- 静かな日常と激しく変わる日本の姿が同時に存在した時代であったとのこと。

私自身の生活を振り返ると、3C(カラーテレビ、クーラー、カー)にはまだ無縁で、夏の暑さは扇風機、打ち水、縁台での夕涼み、蚊帳での就寝、冬の寒さはコタツ、石油ストーブ、火鉢、煎餅布団に毛布でしのいでいた。夏は30℃を少し超える位の暑さ、冬は露出した水道管や池の水が凍ることもあったと記憶しています。半世紀強を経過して、特に夏の酷暑から温暖化の進行を感じています。ご飯はちゃぶ台(昭和を代表する光景)を囲んで食べていました。父親のちゃぶ台返し風なものを経験したこともあったかな。当時の中学校は一学年7組、300人規模、団塊の世代後ではあったが、それでも結構な人数であった。次ページへ⇒



今では考えられないが、中間・期末テストの成績は名前入りで掲示板に張り出された。入学時は後ろから数えた方が早いほどの劣等生でとても恥ずかしかった。小学校と中学校の違いを実感した瞬間でした。これではまずいと思い、それ以後勉強を頑張った。マラソン大会は一大イベントであった。のどかな田園風景のコースであったことに今更ながら驚いてしまう。異性に関心を抱く時期でも有り、良いところを見せようと必死で頑張った思い出があるが、最後の心臓破りの坂は本当にきつかった。

現在の航空写真、家がびっしりですね。半世紀以上が経過しているので当たり前と言えばそれまでですが、まさに隔世の感があります。中学通学路は姫街道の混雑を回避する駅方面への抜け道となっており、交通量が結構多いですね。石畳の急坂は昔の面影を今に残している貴重な場所と思っています。たまに車で通ることがありますが本当に勾配がきついです。茶園広め地蔵のある付近が、段子川に架かる木製の橋があった所になります。ここを通る度に、昔 橋があったことを思い出します。50年後、どの様に変貌しているのだろうか？

以上、おそまつでした。

2026.5.18 7部在住 U